

私たちの生活と新聞～新聞をより身近に感じる～

兵庫県立錦城高等学校 校長 高木 浩
教諭 田中 宏典

1. はじめに

本校は、1951年に明石市大蔵谷の地に、明石市立東高等学校として普通科1学級、商業科1学級で設置された。その後、1965年に県に移管され、現在の地に兵庫県立錦城高等学校として設置され、今年創立65周年を迎える夜間定時制普通科高等学校である。

勤労青年のための教育機関という定時制普通科高校の従来からの使命も、時代の変化とともに不登校・中途退学者等への学び直しの機会の提供、困難を抱える生徒の自立支援等の面でも期待が高まっている。また、外国籍の生徒や発達障害等の特別な支援を必要とする生徒への対応等も重要な課題となっており、多様化への対応を余儀なくされている。

明石地区唯一の定時制高校として、『自立し、たくましく生きる生徒の育成』に向け、「確かな学力の習得、社会性の涵養、将来を切り拓く強い心の醸成」を教育目標に掲げ、生徒が主体の学校づくりに励んでいる。

2. 本校の現状

本校には新卒の生徒、過年度卒や成人の生徒、また全日制課程から再チャレンジを目指す生徒など、年齢や経歴もさまざまな生徒が在籍している。3年間で卒業を目指す3修制と、4年間で卒業する4修制の2つの形態から、それぞれの実情に合わせて、202人の生徒が学校生活を送っている。

本年度は本校初となる1泊2日の新入生オリエンテーション合宿を行った。京都府宮津市にある府立青少年海洋センター（マリーンピア）へ行き、各部オリエンテーション、学習活動、カッター訓練などに参加し、集団生活を通じて、基本的な生活習慣や錦城高校でのルールを身に付け、学年クラスへの帰属感や連帯感を高めることに励んだ。また、これまで外部からの不審者対応など生徒の安全への懸念といった事情から実施できていなかったグラウンドでの体育祭、約10年間実施のなかった文化祭を実施するにあたり、生徒による実行委員会を本格的に組織化し、受け身の運営から生徒による主体的な運営への転換を図っている。

3. 実践にあたって

(1) 新聞の年間購読計画

本年度本校は、実践形式 B 型であったため、4～6 月と 9 月の 4 カ月は（朝日・読売・産経）、10、11 月と 1、2 月の 4 カ月は（神戸・毎日・日経）を朝刊と夕刊をセットで、1 年間を通しての新聞提供を受けた。

(2) 新聞コーナーの設置

本校の HR 教室は県立明石南高校と共有しているため、昨年度同様、本校の校舎から HR 教室への渡り廊下に新聞コーナーを設置した。また、9 月からは各学年ごとに、夕刊を中心に教室に新聞を置き、生徒により身近に新聞を感じられるように工夫した。また、新聞のバックナンバーについては、約 1 カ月間分を目安として、生徒玄関に近い保健室前の廊下に閲覧スペースを設けた。



渡り廊下に設置した新聞コーナー

4. 実践の内容

(1) 第 1 学年「生物基礎」

生物基礎では「生体防御」の授業の中で、インフルエンザやノロウイルスの記事を取り上げて、ウイルス感染や細胞性免疫の仕組みについての補助的な教材として活用した。また、ノーベル賞を受賞された大隅良典さんの記事を 3 紙にわたって紹介し、生徒が生物への興味・関心を持ってくれるきっかけ作りとして活用した。

(2) 第 1 学年「現代社会」

地歴・公民科（社会科）では、資料やデータとして新聞記事が多用される。また、一つの「出来事」を取り上げ、その扱いを見比べるなど新聞を活用した実践事例は多い。

そのため本年度は、新聞の「ペーパー」としてのビジュアル面での「強み」を考えるため、株式市場欄の見比べとして、全面高になった日の株式市場欄と全面安になった日の株式市場欄を見比べた。

平成 29 年 1 月 4 日から 2 月 13 日の期間で、最高値は 2 月 10 日、最安値は 1 月 31 日であったが、2 月 11 日（土）の新聞がなく、全面高は 1 月 26 日を使った。新聞社により「白」「黒」の差に相違があった。授業では日本経済新聞を用いた。



(3) 第2学年「化学基礎」

化学基礎では6月と11月の新元素「ニホニウム」についての記事を紹介し、他の元素の元素名（元素記号）の由来の説明に活用した。

(4) 第4学年「キャリア教育」

キャリア教育では、自分が気になる新聞記事を探し出し、その記事に関して、他の新聞記事の内容と比較、またはインターネットを使って、その後の追跡調査に取り組んだ。



A3判用紙を使用し、表面には「自分がその記事のどういった点が気になったか」を記入した。裏面には「比較して分かったことや、調べてみて気がついたこと」を感想ともにまとめ上げた。



5. 新聞記者派遣の取り組み

12月15日（木）に新聞記者派遣事業として、4年生の14人を対象にして、社会人になるにあたっての新聞の必要性を知ってもらおうと、兵庫県NIE推進協議会事務局長の山崎整氏に「ニュースを知れば一目置かれる!？」の題で、講演を依頼した。本校の生徒は全く新聞を読む習慣のない生徒が大半を占めている。そのため講演では、当日の新聞から過去のさまざまな記事を取り上げ、社会に与えた影響について、言葉をかみ砕きながら分かりやすく説明していただいた。中でも大手ITのDeNAのサイトが、他のメディアから記事が無断で転用したことなどが分かり、同社の全サイトが休止になってしまうなどの経緯を詳しく解説された。記事の正確性に欠点のあるネットニュースと新聞記事を比較しながら、新聞の必要性を強く強調されていた。

最後に山崎氏から本校生に向けて「1日に10分でもいいから新聞をめくって世間で何が起きているか知ってほしい。新聞から得た情報や知識の蓄積は、社会に出ても必ず役に立つ」とアドバイスを受けた。



6. アンケート結果（一部抜粋）

（1）新聞記者講演会について

①講演会を聴いて、新聞について興味を持ちましたか？

- ・興味を持った（12人）

②新聞が必要であると感じましたか？

- ・必要だと感じた（13人）

③卒業後（将来的）に新聞を購読しようと思いますか？

- ・購読しようと思う（7人）

④講演会後の生徒の感想

- ・職場の人たちとの話題作りのために新聞を読もうと思った。
- ・インターネットの情報を簡単に信じてしまっはいけないと思った。
- ・社会のニュースをもっと見て、社会で何が起きてどう思ったかを考えられるようになっていきたいと思った。

（2）1学期末のアンケート

①日頃、国内や海外のさまざまな情報をどのような手段で入手していますか？

- ・インターネットやテレビ（94%）
- ・新聞（6%）

②1学期中に、学校に置いてある新聞を読みましたか？

- ・読んだ（12%）
- ・読まなかった（88%）

③読まなかった理由

- ・興味がない（80%）
- ・読む時間がない（10%）

④家庭で新聞を購読していますか？

- ・購読している（18%）

（3）2学期末のアンケート

①2学期中に、学校に置いてある新聞を読みましたか？

- ・読んだ（25%）
- ・読んでいない（75%）

②読まなかった理由

- ・興味がない（85%）
- ・読む時間がない（10%）

7. まとめ

本年度は昨年度の反省を踏まえ、年間を通じた新聞提供を計画し、HR 教室へ新聞を置き、生徒に新聞をより身近に感じさせるべく実践を行ってきたが、本校生の新聞に対する関心は依然として低いままであった。しかしながら、兵庫県 NIE 事務局長の山崎整氏を招いて実施した講演会では、多くの生徒が新聞の必要性を感じ、新聞に興味を持たせる良い機会となった。また授業では、教科の学習理解を深めることに活用し、キャリア教育では自分が気になる新聞記事を探し出し、他の新聞記事の内容と比較するなど工夫した内容となった。

2年間の NIE の活動を通して、新聞を使ってどんな活動をし、生徒にどのような力を付けさせたいのかなど、学習の見通しをより明確にして実践を行うことの重要性を強く感じた。